

アミロイドーシスに関する調査研究班 平成23年度の研究成果

研究協力者: 札幌医科大学 内科学第一講座 石田禎夫

【研究題目】 ALアミロイドーシスにおけるPICとFLCの有用性の検討

【目的】 ALアミロイドーシスにおける病勢評価において、プラスミン- α 2プラスミンインヒビター複合体(以下PIC)とフリーライトチェーン定量法(FLC)の有用性を明らかにする

【方法、結果】 下記シエーマ参照

対象

2011年4月から12月に当科で診療した全身性ALアミロイドーシス16例(原発性14例、骨髄腫合併例2例)

方法

α 2-PIC値、FLC値と、各種臨床情報とを比較検討した。FLCを用いた血液学的効果判定を行った。

結果

- 12例で血液学的寛解、5例で臓器学的改善を認めた。
- 全例でPICの異常高値を認めた(表1)。
- 肝病変の有無でPIC値上昇に有意差を認めた(表1)。
- 治療開始後1年以上たった10例では全例で血液学的寛解であり、治療前後でPIC値が有意に減少した(図1)。

結論

- FLCは、ALアミロイドーシスの治療効果判定に有用である。
- PICは、ALアミロイドーシスの病勢を反映する可能性が示唆される。

表1 主な臓器病変とPIC値

病変臓器	症例数		PIC (μ g/mL)		p 値
	病変なし	病変あり	病変なし	病変あり	
心	10	5	3.1 \pm 2.4	6.1 \pm 6.1	0.19
腎	2	13	5.1 \pm 4.1	4.0 \pm 4.2	0.68
肝	12	3	2.5 \pm 0.96	10.7 \pm 5.51	0.00012
消化管	8	7	4.3 \pm 5.2	3.9 \pm 2.6	0.87
全例	15		4.1 \pm 4.1 (1.4-17)		

図1 治療によるPIC値の変動

